御殿堰 大黒天便り

◆第八号◆

山形市中心市街地を流れる御殿堰。その豊かな水の流れを見守っているのが私「御殿堰大黒天」です。

「大黒天便り」では、わたし大黒天が御殿堰の歴史・季節の話題・生活の知恵など『なるほど！』と思っていただける内容をお伝えしていきたいと思っています。今回は第七号です。

◆御殿堰つるし飾り◆

水の町屋御殿堰では、日本三大つるし飾りの展示をしています。

日本三大つるし飾りとは、「山形県酒田」「静岡県稲取」「福岡県柳川」の3つの地域で今も伝承されている雛飾りのひとつです。

御殿堰に展示しているつるし飾りは、さやかですが、御殿堰へお越しいただいた方に気軽に楽しんで頂けるようにと、ひとつひとつ手作りをしたものです。酒田・稲取・柳川それぞれの地域によって、雰囲気が異なります。展示されている軒下横の壁には、それぞれのモチーフに込められた想いを説明したボードを展示してます。

春近し。

御殿堰の水の流れる音。

町屋の軒下にさがる色鮮やかなつるし飾り。

一足早い、春のほっこりを感じに、御殿堰へお越し下さい。

【御殿堰よりお知らせ】

◆庄司屋 営業日・営業時間変更◆

そば処庄司屋では、三月より営業日と営業時間を変更致します。

三月より定休日の月曜日も営業致します。皆様のご来店を心よりお待ち申し上げております。

【時間】一一時～一六時／一七時～二〇時

【定休日】なし

◆わかのや季礼 三月一八日(金) リニューアルオープン◆

奥の蔵座敷に店舗を構える和装小物屋WAKANOYA-GETAが『わかのや季礼』として三月一八日(金)にリニューアルオープン致します。

改装工事のため、三月七日(月)～一七日(木)まで休商日とさせていただきます。

『ていねいに暮らす。心地いいを贈る。』

新しくなった店舗へ、皆さま是非足をお運びください。

WAKANOYA-GETA店舗改装工事中(三月七日～一七日)は、雛まつりスタンプラリーのスタンプ設置店舗を『結城屋』と致します。

三月一八日のリニューアルオープン後は、『わかのや季礼』にスタンプを設置致しますので　宜しくお願い致します。

『蕎麦湯』

蕎麦は五穀(米・麦・キビ・粟・豆)以外の穀物でタデ科に属する植物。日本では古くから食糧として栽培されています。

栽培期間はおよそ八十日。条件によって大きく変わってきますが、種まきから収穫までの期間はそれほどかかりません。

『蕎麦』について注目すべき点は、豊富な栄養をもっていること。主食として食べることが多い蕎麦ですが、でんぷんを主体としたたんぱく質・ビタミンB群・ルチン等が含まれています。ビタミンB群・ルチンは水に溶けやすい栄養素ですが、蕎麦湯を飲むことで解決です。

蕎麦粉の澱粉は他の澱粉よりジアスターゼによる消化が非常に早く、その上、水でも十分と言われるほど粘化温度が低い、つまり水によく溶けるという性質があるのです。そのため、栄養分もたくさん蕎麦湯の中に溶け出しています。

『美味しいお茶を入れるには』

①湯は一度必ず沸騰させる

②急須に入れた湯は、必ず全部注ぎきる

③種類にあった入れ方をマスターする

この3つを意識してお茶を入れていただくと、美味しくお茶を入れることができます。お茶を入れる時は必ず一度沸騰したお湯を使用するのが鉄則です。沸騰させるのは、塩素抜きと殺菌に効果があるためです。

お湯の適温は茶葉の種類によって異なります。「ほうじ茶」は九〇度位。「深蒸し茶」「粉茶」は七〇～七五度位。「浅蒸し茶」は七〇度位、「玉露」は五五度位を目安にして、後は好みで温度を設定すれば良いと思います。お茶の渋みは、お茶の薬効成分であるタンニンが茶葉から溶け出して茶独自の味を作り出します。この溶け出す温度は七〇度付近から徐々に溶け出すため八〇度以上で入れれば渋みが強く、六〇度以下で入れれば甘くなる、甘さが命の「玉露」はそのために低温で入れるのです。

山形あれこれ ⑤七日町

御殿堰が流れる七日町。

山形城下町には一と九の市日を除いた市日の地名が町名として残されています。明治以降になり、急速に発展した町が七日町です。

江戸時代は、八日町・十日町・旅篭町が中心となってにぎわっていましたが、初代県令の三島通庸が新県庁(現在の文翔館)を作ってから、人の賑わいが七日町に変わってきたのだそうです。

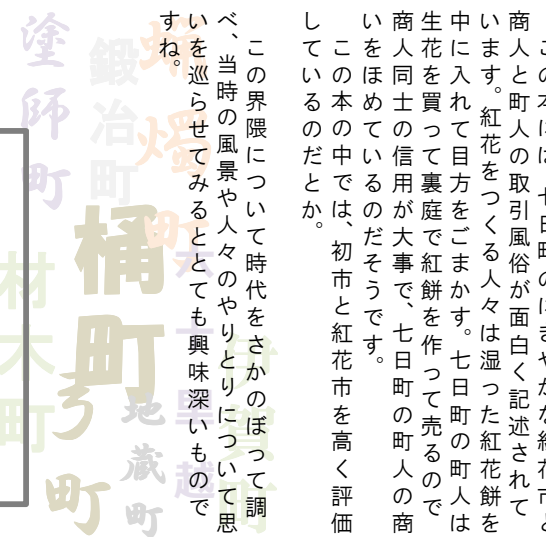
明和四年(一七六七)、山形城に埼玉の川越城主秋元藩が転封された。幕末の山形城下を知るため「山形経済志料」は大正一〇年当時の山形商工会議所副会頭渡辺三郎氏が主唱して作られた冊子がありますが、この本を熟読しないと山形の歴史はわからないようです。

この本によると、秋元公は山形は寒い・江戸から遠い・みちのくで山ばかりの古ぼけた城下町である。というような知識であったため、奉行を勤めていた山瀬遊圃を派遣して山形城下を詳しく調査させたのだとか。その結果、詳しい見取図と町・寺社に至るまで歴史・地理・風俗に分けて報告されているのが「山形雑記」という本になります。

この本には、七日町のにぎやかな紅花市と商人と町人の取引風俗が面白く記述されています。紅花をつくる人々は湿った紅花餅を中に入れて目方をごまかす。七日町の町人は生花を買って裏庭で紅餅を作って売るので商人同士の信用が大事で、七日町の町人の商いをほめているのだそうです。

この本の中では、初市と紅花市を高く評価しているのだとか。

この界隈について時代をさかのぼって調べ、当時の風景や人々のやりとりについて思いを巡らせてみるととても興味深いものですね。



次号の発行は四月七日です。
来月も皆様と紙面でお会いできるのを楽しみにしています。

© 七日町御殿堰開発株式会社